

1 自己紹介

みなさんこんにちは。米本潔と申します。文化遺産マネジメントラボの代表を務めています。各地の文化財の保存や活用についての仕事のアドバイザーをやっています。

私は今日、隣の山口県山口市からやってきました。益田までは車で1時間半、山口線を使ってくるとおよそ2時間の距離にあります。さて、ここから速足で山口市ってどんなところか説明しますのでよく聞いていてくださいね。

スライドを30秒～1分くらいで紹介

みなさん、興味を持ってもらえましたか？もしもらえなかったら、私の今日の話は失敗ということになります。少しでも興味を持ってもらえたらまずは成功といったところでしょうか。なぜかというと、お客様に最初の30秒、いや15秒で何か興味を持ってもらえない限りはその後には続かない。そこでさようなら、ということになってしまいますよね。

2 今日の話しの内容

さて、今日は「日本遺産」についての話をします。みなさんも少しは調べたりしたのでしょうか。そうであればさらに理解を深めてもらえるといいと思います。それから日本遺産をどう生かしたらいいのかについても話をします。つまり、みなさんがこれから取り組んでいくスタンプラリーの作成に役に立つお話です。ポイントが3つありますので、そこはよく注意して聞いてください。

3 日本遺産について

日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定する、とあります。

みなさん、世界遺産というのを聞いたことがあるでしょう。この近くだと「石見銀山の文化的景観」とか「明治日本の産業革命」のひとつとして萩市の城下町や反射炉などが登録されていますね。世界遺産の目的は「保存」です。構成文化財を将来にわたってひたすら保存することが目的ですね。一方日本遺産は、「地域の活性化を図る」ということが目的です。「地域の活性化」についてはあとで話をしますが、ようは地域にお金が回って人が住み続けられるようにする、ということです。

3 ストーリーについて

ではストーリーとは何でしょうか。いったい誰がこれをつくったのか。みなさんよく知っている「桃太郎」の作者は不明ですが、日本遺産のストーリー（物語）には作者がいて、益田市の場合は文化財担当者の方でしょう。また、ストーリーには主人公が必ず存在します。益田市の場合ははっきりとは特定はできませんが、広く益田氏といったところでしょうか。実際には映像にあるようにA42ページにわたって本文と写真でびっしり埋まっています。

これではちょっとわかりにくいので、あらすじを私なりに簡単にまとめてみました。

※あらすじを説明する。

さて、みなさんこれをはじめて聞いた人が理解できるでしょうか？ここでポイント①です。桃太郎と違って、日本遺産のストーリーはそのまま伝えても分かりづらいのです。ですから誰に説明するのかによってわかりやすく加工する必要があります。

4 日本遺産の目的とは？

(1) 文化財とは

日本遺産の目的ですが、「ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ること」です。つまり、文化財群を発信して地域の活性化につなげていくということですね。

「文化財」とは、地域に残る歴史ある建物やお祭り、城跡、庭園、山や溪谷など一定の価値があり、国や県、市町村によって認められた（指定された）ものをいいます。古いからと言ってすべてが文化財であるわけではありません。日本遺産でいう文化財群は、指定されているものもあれば指定されていないけれど、物語に関連する価値を持つものも含め、それらのまとまりを文化財群とっています。益田市のストーリーの場合、26の文化財群によって構成されています。

(2) 何を発信するのか

次にそれを「発信」して、とあります。文化財をどうやって発信するかということですが、ここが重要です。すでにホームページやマップには構成文化財の概要は写真入りで掲載されているので、それを使えばいいじゃないかと。

例えば萬福寺庭園について、おおおよそ次のような解説が行われています。

※解説を紹介

しかし、これでは庭の単なる歴史を紹介したに過ぎません。庭の魅力が相手に全く伝わらず、行ってみようということにはなりません。そこで、次のようにしてみました。どうでしょう。

※解説を紹介

これなら説明してくれる人の思いや感じたことが述べられていて、では自分も言ってみよう、ということになりますよね。

次に染羽天石勝神社はどうでしょう。

※解説を紹介

これも少し直してみました。

※解説を紹介

これでどうでしょうか。説明する相手は何年に誰が作ったとかにはあまり興味はありませんし、仏教や神道のことなども実はよく分かっていませんから、そこを説明しても実はあまり意味がないのです。たとえ説明しても聞いている人は覚えてはいません。

ここでポイントの②です。歴史の解説だけでなく、どんな魅力を伝えたいのか、また自

分はどんなふうを感じるのかを説明するとよいと思います。

(3) 何で発信するのか

次に何で発信するのか、つまりどの手段が一番効果が高いかということですが、イベントなどで調査した結果によると今のところはテレビや新聞が一番です。それらに取り上げてもらうためには「話題性」が必要になります。例えば日本遺産に認定されたとか、皆さんが地域の人と一緒にスタンプラリーを行う、というような話題性です。

若い人や一部の人たちの間ではすでにスマホやタブレットなどのSNSを利用する人が多くなっていますので、今後はフェイスブックやインスタグラムなどで情報を得ていく人が増えるものと思われます。

このお姉さんたちが見ているのは、城山の風景なのですが、実はVR（バーチャルリアリティ）で再現した城があったころの姿です。昔の絵図などから専門の人に検討してもらったかなりリアルな映像です。あるポイントに行くと360°見渡すことができます。

(4) 地域の活性化とは

日本遺産の最終目的は「地域の活性化」です。非常に分かりにくい言葉なのですが、要は、これからもこの地に人々が暮らしていける「仕組み」をつくる＝「循環」をつくり出すということです。

まずは、今住んでいる人が生き生きと暮らしているということです。みなさんのご先祖はこの地に生まれ、そして暮らし、歴史や文化が今こうして伝えられているということは、この地で豊かに暮らすことができているからこそでしょう。

次に、この地域で働き続けることができるということです。働くことでお金を生み出し、また外からの観光客を招くことでお金（外貨）を稼ぐことができます。お金を稼がないと生活はできませんね。将来みなさんの中には益田を離れられる人もいるでしょう。でも益田が生き残っていくためには益田に残る人が暮らしていけるだけの仕事が必要になります。例えば、文化財の保存の取り組みをやめてしまうと、これまで大工や左官、材料を扱う仕事などもなくなってしまうわけです。そういった人たちのためにも文化財を守り、継承していくことが大切になります。

最後に、豊かな暮らしや仕事をこれからの若い人たちにつないでいくことが大切です。この地域にしかない歴史や文化をみなさんたちの世代で絶ってしまうと、益田のオリジナリティは失われてしまうのです。

5 日本遺産は役に立つ

将来みなさんが出くわすいろんな場面において日本遺産の考え方は役に立つと考えています。例えば、みなさんが将来益田を離れ、出身地を聞かれたときや、自分を頼って益田にやってきた知人をちょっと案内するときなどに。なかには将来ボランティアガイドになって観光客の方などを案内するようなこともあるかもしれません。また将来恋人と、また家族で旅行を計画するときに、何を見て何を食べて買ってなど思いを巡らせることがあるでしょう。そうした時に大いに参考になります。

イギリス人で、日本の神社仏閣を修理する会社の社長をつとめているデイビット・アトキンソンという人がいます。彼は日本遺産の認定審査を担当している一人でもありますが、彼は著書の中で、観光に必要な4つの要素をあげています。それは気候、自然、歴史・文化、食事です。気候というのは日本でいえば四季ですね。北海道から沖縄まで同じシーズンでも気候が違っているので日本は一年中観光を楽しむことができる珍しい国であると彼は言っています。

確かに、観光情報の中には特定のシーズンにしか見られないもの、食べられないものがあります。一年中同じ情報を出してはだめだということが分かってもらえますか？そこで、次のようなシートを考えてみました。

縦に四季、横に自然、歴史・文化、食、テーマの項目をとります。いつの季節にどういった素材を提供できるのかを当てはめていきます。そしてお客さんが体験できる旅行のタイトルを決めます。できたらそれにかかる金額も決めるといいですね。

そこでポイント③です。コース設定は、主役になって、どんなコースを巡ったらどんな物語が体感できるのかを考えようです。主役は益田氏なのか、雪舟なのか。必ずしも構成文化財だけで考える必要はありません。見るだけでは面白くありませんので、何か体験できるプログラムを考えてみるのも面白いと思います。お庭を見ながら休憩するのに、お茶やお菓子があるといいですよ。益田には伝統的な和菓子がたくさんあります。

6 最後に

スタンプラリーにはいろいろなやり方があります。普通にスタンプを押すやり方、電子スタンプなどを取り入れているところもあります。むつかしいのはスタンプをどこにどうやって置くかということです。デジタルスタンプなら、どこかにQRコードを置いておけば簡単です。

また、一度作ったコースをほかの人に体験してもらい、修正を加えていくことが大切です。これはいいと思って作ってみたものの、人気がないというケースも多々あります。

今日ご紹介したのは、私が文化財の保存や活用、そして日本遺産の推進に関わってきた経験から得たものです。もしかしたら、スタンプラリーをつくるうえで、益田市の文化財担当の方や一般の市民の人たちが現時点で考えるイメージとは違ったものかもしれません。しかし、将来必ず役に立つことですので、今日お話ししたことを一つでも覚えていてくれたらうれしいと思います。

みなさんが新しい益田の未来をつくっていつてくれることを期待して今日の講義を終わります。